



カットやスライス用に適した単為結果性トマト 新品種「サンドパル」* (系統名: 試交10-2) を開発

開発の背景・ニーズ

生食用トマトでは、サラダ、サンドイッチなどカットやスライスする用途の需要が伸びています。また、生産者からは受粉作業が省力できる品種が求められています。そこで、消費者と生産者の双方のニーズに応え、カットやスライス用に適し、栽培が省力化できる品種開発に取り組みました。

成果の内容

開発した品種の特徴は、

- (1) 果実重は200g程度で、液だれしにくいいため、カットやスライスする用途に向いています。
- (2) 受粉・受精がなくても果実が大きくなる単為結果性を持っているため、植物成長調節剤処理やマルハナバチ（訪花昆虫）による受粉が不要です。
- (3) 赤い果色で、空洞果の発生が少なく、花落ち部は小さめです。
- (4) トマトのモザイク病（ToMV）、萎ちょう病など主要病害に抵抗性を示します。本品種は、平成26年3月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

ゼリー部の割合が低く、液だれしにくい

空洞果の発生が少なく、花落ち部（花痕部）は小さい

サラダやサンドイッチに最適

単為結果性により、着果のための作業が不要

愛知県農業への貢献

愛知県は全国第4位のトマト生産県です。消費者と生産者の双方のニーズに応えた本品種の導入により、トマトのさらなる消費拡大が期待できます。

(※：サンドパルは愛知県が取得した登録商標です。)

【本研究の一部は、「農林水産省・委託プロジェクト研究」で実施しました】

園芸研究部・環境基盤研究部